



学園、大学の教職員を前に年頭のあいさつを行う後藤淳理事長

二〇〇八年仕事始めの一月五日、愛工大八草キャンパス第二本部棟、愛工大名電高校で、後藤淳理事長、後藤泰之学長が恒例の年頭あいさつを行い、学園、各設置校を取り巻く課題や来年の大学創立五十周年記念事業計画に、教職員一丸となり積極的に取り組むよう

若い人に魅力ある学園設置校を総力挙げてつくろう
「厳しい状況」見据え各課題に対し積極的な取り組みを
理事長、学長が恒例の年頭あいさつ



愛知工業大学専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

年頭あいさつ	2
映画製作集会	3
平成20年度入試	4
就職戦線好調	5
学会等での受賞	6
学園表彰	7
高校定期演奏会	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

に呼びかけました。理事長は午前九時から、名電高会議室で中学・高校の教職員に訓辞。続いて同十時三十分から八草キャンパス第二本部棟五階大議室で学園職員、大学教職員に訓辞、続いて学長が新年のあいさつを行いました。両訓辞の中で、理事長は少子高齢化や理工離れ対策に各教職員が一丸となり、取り組んでほしいと強調。また、魅力ある学校づくりは、若い人が何に魅力を感じるかをつかみ、学校自ら創っていくべきだと、述べました。

学長に後藤泰之氏再任



学園理事長は二月二十二日、任期満了（三月三十一日）に伴う愛工大学長に後藤泰之・現学長を再任しました。任期は四月一日から四年間です。再任された後藤泰

日、任期満了（三月三十一日）に伴う愛工大学長に後藤泰之・現学長を再任しました。任期は四月一日から四年間です。再任された後藤泰

のづくり」の要素を含み、学生の教育の場になる映画を製作することを明らかにしました。入試については一般入試の志願者の現状を踏まえ、推薦入試や高大連携の強化を含む、一層の入試改革の必要性を強調しました。

細は二面で紹介）「年頭あいさつ」の詳

大橋朝夫、後藤俊次両氏に後藤鉦二賞

教育や科学技術、スポーツの振興などを通して学園の発展に寄与した人に贈られる「平成十九年度後藤鉦二賞」に愛工大電気学科教授の大橋朝夫（69）、愛工大附属中学教頭の後藤俊次（65）の両氏を選ばれ、一月二十二日、本部棟二階会議室で授賞式が行われました。

す」とお礼を述べました。記念撮影の後、食事をしながら歓談しました。

《後藤鉦二賞受賞者横顔》
【大橋朝夫氏】



昭和六十年十月電気工学科教授になり、静電気工学を専門分野に電気・材料工学専攻の発展に尽力。また、学生部長、大学企画推進室長、学長補佐を歴任、全学の教育ほか学部・学科の再編等さまざまな大学改革に貢献しました。

【後藤俊次氏】



昭和三十七年四月に名古屋電気工業高校助手として奉職、四十年九月から中学教諭として中学教育一筋に歩み平成十二年四月からは教頭として中高一貫教育の中心的役割を果たし、この間、入学者を増やし教員の資質の充実等に寄与しました。

之学長は、「大学は今、改革を進めており、次の四年間、精いっぱい努力していきたい。私学を取り巻く状況は厳しいので、大変だが全力を尽くしたい」と二期目の抱負を語りました。

後藤泰之学長は八五年三月、東海大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程後期を単位取得で満期退学（八八年九月工学博士号取得）。東海大、名古屋大講師を経て、九三年四月本学工学部助教授に就任、〇〇年十月から教授。学長代理を経て、〇四年四月から学長。名古屋電気学園副理事長も務めています。専門分野は電力工学。五十歳。



愛知工業大学
後藤 泰之・学長

来年はいよいよ大
学開学五十周年を迎
えます。それに向け

理事長 「教職員一丸となり課題対応を」

学 長 「社会のニーズに応じて進化を」

昨年引き続きまして、どうぞ宜しくお願いま
す。今年の正月は非常に寒さが厳しくて、身の引き
締まるような一年のスタートを切ったわけでありま
す。
地下鉄に本学の広告が貼ってあり、その中に「四
年間、責任を持って教えます」と、書いてありまし
た。本学にとって、大事で、ふさわしい言葉と思
います。また、この二十年四月からの学部・学科再編
のことが案内されていますが、その中で、文系の人
を積極的に受け入れることをPRしています。
本学のキーワードは、やはり「ものづくり」であ
り、「ものづくり」に関連したビジネスなり、情報



名古屋電気学園
後藤 淳・理事長

新年のごあいさつ
を申し上げます。昨
年は私自身、個人的
にいろいろあった一
年でした。新年を迎
え、改めて新しい年
の発表を、心から味
わいたいと思ってい

ます。
昨年、学園・大学の事務局を統合するということ
で、大学・八草キャンパス内(豊田市)に本部棟を
新築し学園本部を移転しましたが、この一年で軌道
に乗ってきた、と思っています。旧学園本館(名古
屋市千種区)は、大学発祥の建物ですが、老朽化し
たため、中学校舎の建て替えに伴い、取り壊すこと
になりました。
さて、いよいよ平成二十年度入試が始まります。

大学では、ここ数年、学科再編等いろいろな改革に取り組んできまし
た。各大学とも、いわゆる少子化、高齢化、理工離れなどの厳しい状
況下で苦心しています。本学でも、時代に合わせて、その要請に応え
られるような大学にするために、これまで以上に教職員が一つとなり
取り組んでいってほしいと思います。
現在、名古屋市から借りることになった自由ヶ丘で、「新キャンパ
ス建設」へ向けて、着々と準備を進めています。周りの環境で東京、
関西へ目を向ける県内の高校生が年々増えています。大学を卒業し
て、就職となると地元へ戻って来る人も多い。だから、「地元で勉強
して、地元で人材を養成すること」が大事だという気がします。その
ためには、若い人が何に魅力を感じるかをつかみ、本学でもそれらを
創っていかなくてはなりません。
高校(愛工大名電)でも、三年間かけて愛工大の希望の学科・専攻
分野につながる勉強をして、進学する「科学技術科」をつくり、高校
と大学が手を取り合って七カ年一貫教育をするという方向が今、進ん
できています。
間もなく今年度の締めくくりですが、輝かしい二十年度を迎えられ
ますよう心から宜しく願っています。

て、名古屋キャンパス、新一号館の建設といった建物整備のほか、い
ろいろな記念事業が計画されています。その中の一つに、映画製作企
画があります。映画づくりは、いろいろな「ものづくり」の要素が含
まれていて、学生たちがそれに積極的に関わることが非常にいい教育
になると思います。
入試に関しては、本学を取り巻く状況は非常に厳しいと、皆さん聞
かれています。今年から、いよいよ「高大連携」を強化し、
すでにスタートしている名電高、犬山高以外の高校にも積極的に広げ
ていく予定です。また、一般入試の志願者がなかなか増えない中で、
推薦入試等である程度確保するなど、さらなる入試改革が必要ではな
いかと思っています。そういった状況で入学してくる学生たちの学力
二極化は避けられない訳で、二極化を前提としたカリキュラムの見直
しや、「FD活動」の一層の充実などの方策を実現させていかなけれ
ばならないと考えています。
さて、本学は来年、五十周年を迎えようとしていますが、「伝統の
継承」はずっと、古い物を守っていくのではなく、自らの力で社会のニ
ーズに応えるために進化し続ける必要があるのではないかと思ってい
ます。本学が大変厳しい状況にあると、言うことをご理解いただき、皆
さんが一丸となり、各課題に積極的に取り組むことをお願いして、年
頭のあいさつとさせていただきます。

学園人事

◆人事異動(一月一日)

【昇 格】

(大学) 研究支援本部主査 阿部 節子

学生支援本部主査 重田百合子

【新規委嘱】

(大学) 基礎教育センター事務室

嘱託職員 室崎 園子

附属図書館図書課嘱託職 清水 芳恵

員 附属図書館図書課嘱託職 鈴木美千子

研究支援本部(地域防災 研究センター)嘱託職員 小林 有希

◆おこやみ

【死 去】

(学園・大学) 元学園理事・初代愛名会会長・元日本

特殊陶業会長・小川修次(おがわ・しゅ

うじ)さん

一月十六日死去。九十

四歳。名古屋高等商業学

校(現名古屋大)を卒業

し、日本碍子(現日本ガ

イシ)を経て日特陶に転籍、八五年

日特陶会長に就任。九〇年三月〇

四年三月まで学園理事、愛名会発足

の九七年から〇三年二月まで初代会

長を務められました。



愛名会会長・大学院経営情報科学研
究科客員教授豊田自動織機相談役・
横井明(よこい・あきら)さん
一月二十一日死去。七
十二歳。トヨタ自動車販
売(現トヨタ自動車)に
入社、九九年豊田自動織
機副会長に転じ、〇一年会長、〇五
年から相談役。中部経済連合会副会
長。〇五年六月から愛名会会長、〇
六年四月から愛工大大学院経営情報
科学研究科客員教授も務められまし
た。



「築城せよ！」の決起集会・キックオフであいさつする後藤泰之学長

集会は、今回の映画づくりの推進役を務める森豪エクステンションセンター長の司会で進行。エグゼクティブプロデューサーの後藤泰之学長が「来年初立五十周年を迎える本学の記念事業の一つとして映画を作ることにしました。映画づくりは、いろいろなものづくりの集まりであり、本学の柱であるものづくりと合致します。感動でき、生きる勇気を与え、チャレンジ精神あふれる映画にしたい」



築城せよ!

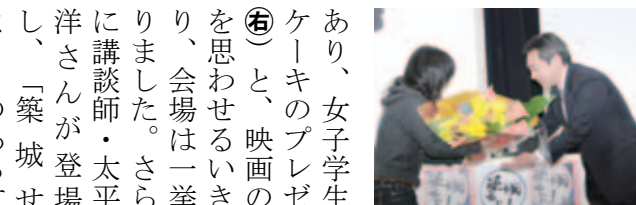
大学創立五十周年記念事業で映画製作

八草キャンパスなどロケ地に今秋撮影

大学は来年迎える創立五十周年記念事業の一つとして映画「築城せよ！」を製作することになりました。映画づくり決起集会・キックオフが二月二日、八草キャンパス10号館一階大講義室で開かれ、学園、大学教職員、監督ら製作スタッフ、学生約三百人が結集し、盛り上がりました。



と、力強くあいさつ。「この日は学長の誕生日でもあります」と森教授からアノウンスがあり、女子学生から花束、ケーキのプレゼント(写真右)と、映画のワンシーンを思わせるいきな演出がありました。会場は一挙に盛り上がりました。さらに講師・太平洋さんが登場し、「築城せよ！」のあらすじを講談調で紹介(写真左)、キックオフに花を添えました。



集会での今回の映画づくりに寄せる愛工大の熱い思いに、感動気味の古波津陽監督(写真左)は、「映画づくりは、人を変えてしまうほどの魅力ある仕事」と、訴えました。最後に、全員で元氣よく「築城せよ！」「オー」と繰り返し、集会を締めくくりました。大学では映画製作の陣頭指揮をとる「愛工大映画製作委員会」を立ち上げ、二月二十九日に本部棟三階会議室で開きました。委員会は、後藤泰之学長を委員長に森教授ら教職員で構成。また、四月から月一回のペースで映画関係者らをゲストに招きフォーラムを開い



て、学内への浸透を目指します。映画は、現代によりがえった戦国武将と地元民が城造りに取り組む中、連帯感と地域おこしに目覚めていくという内容。九月から本学などで撮影に入る予定。(見出し下のロゴマークは、創立五十周年記念ロゴです)

実家火災の大学生に交付
—後藤すゞ子先生奨学金—
学園は一月二十九日、火災で自宅を焼失した愛工大学生に後藤すゞ子先生奨学金を交付しました。奨学金は、学園長だった後藤すゞ子先生の遺志に基づき勉学の意志がありながら何らかの事情で学資負担が困難になった学園設置校の学生、生徒に学業継続を奨励する目的で支給しています。今回は鹿児島県内の自宅が火災に遭った大学生に交付が決まり、この日、本部棟三階会議室で後藤淳理事から奨学金が贈られました。家族は遠方で出席できませんでしたが、理事長は学生から家族の様子を聞いて「これからも頑張ってください」と、激励していました。

助成金対象となった研究テーマは、「太陽光発電設備を搭載した電気自動車のエネルギー効率の向上に関する研究」です。助成金交付式は本部棟の理事長室で行われ、後藤淳理事長が助成金制度の趣旨を述べた後、助成金交付書を手渡しました(写真左)。雪田准教授は「今後は篠原先生を目指し教育、研究に励みたい」と、話していました。

雪田准教授に贈呈
=篠原卯吉先生研究
奨励助成金=



学園は三月三日、愛工大の雪田和人電気学科准教授に「篠原卯吉先生研究奨励助成金」を贈りました。助成金制度は、昭和四十八年一月から亡くなる平成五年三月まで学園理事を務められた篠原卯吉・元名古屋大学学長の「大学の若手研究者の研究支援に」との遺志に基づいて、設けられました。雪田准教授で五人目です。

学園各設置校で平成二十一年度入試実施

大学全入化、少子化と教育界を取り巻く厳しい状況の中、一月二十六日の愛工大附属中学校を皮切りに、愛工大名電高校、愛工大、愛工大情報電子専門学校で、平成二十一年度入試が行われました。

中学

一月二十六日、県内の中学校のトップを切り行われました。同日の奨学生入試に続き、二十七日は第一回一般入試があり、受験者数は延べ五百二十五人、倍率は約五・八倍でした。



愛工大会場の様子

高校入り口で塾関係者の激励を受けた小学生は、会場の教室で試験監督の中学教諭から注意事項を聞き、受験票を確認(写真⑤)。その後、最初の試験科目の国語に続き、理科、社会、算数の計四教科の筆記試験に臨み、真剣な表情で問題に取り組んでいました。合否の通知は一月二十九日ごろ、郵送で各受験生宅

高校

県内私立高校のトップを切った二月五日、高校と河合塾千種校を会場に行われました。志願者数は、昨年を上回り普通科、情報科学科、科学技術科合わせて四千三百二十三人でした。本校では午前七時ごろから、受験生が次々に詰めかけ、正門前で激励する大勢の塾関係者らに見守られて試験会場に入っていました。



受験生で埋まった高徳館の館内

今年改築中の河合塾会場に入りきれなかった受験生を受け入れたため、講堂兼体育館高徳館も会場に。広い館内は四百人を超す受

大学

受験生は監督の高校教諭から試験の注意事項を聞くなどした後、国語を皮切りに各試験問題に取り組んでいました。合格発表は二月八日にあり、各受験者宛てに郵送で合否通知書を発送しました。



写真⑥

一月十九日、二十日の大学入試センター試験に続いて、本学でも一月二十八日から三日間、前期日程A方式、続く一月三十一日には前期日程M方式の各一般入試が、それぞれ八草キャンパスII写真⑦のほかに、地方会場で行われました。試験のピークとなった二

ロボカップジュニア 2008愛工大大会

ロボカップジュニア二〇〇八愛工大大会(愛工大エクステーションセンター主催)が二月九日十日の両日、八草キャンパスのA1Tプラザ三階で開かれ、「サッカーチャレンジャー」と「レスキューチャレンジャー」に分かれて、自慢のロボットの性能を競い合いました。初日は、サッカー競技・サッカーチャレンジャーが行われました。小学四年から高校二年までの七チーム(一



熱戦を繰り広げたロボカップジュニア2008愛工大大会

チーム二人)によるリーグ戦で、三月二十三日の東海大会(会場・本学鉾徳館)を目指して、熱戦を繰り広げました。対戦する二チームのサッカーロボ四台が、卓球台ほどの広さのフィールドでゴール目指し、ぶつかり合いました。優勝したのは高橋竜平君(田代小四年)、杉村剛生君(香久山小四年)のチームで、東海大会出場権を手にしました。二日目のレスキューチャレンジャーは、決められたコースを回り、目標物を見つけてポイントを競う方式で行われました。この日は、雪に見舞われたこともあり、参加者は十チーム十人でした。しかし、競技は盛り上がり高得点を挙げた稲森太一君(愛工大名電高二年)が優勝。東海大会にはエントリー数の関係から、希望者が出場しました。

大学の就職戦線は理工人気で今年も好調

愛工大の平成十九年度の就職内定状況(二月一日現在、キャリアセンター調べ)で昼夜間合計の内定率が九六%を超え、また、二月十九、二十日の両日開かれた学園設置校の来春卒業生対象の今年初となる学内企業展には四百を超す企業が参加、理工人気を反映し盛況でした。

大学 大企業展

人事担当者から直接、話を聞いて企業に対する理解や就職に結びつけてもらうとー平成二十年学内企業展が二月十九

三十社多い愛名会加盟企業四百二十九社が参加しました。人事担当者が、訪れた学生にパンフレット、自社製品を見せながら自社案内や採用計画について説明

写真⑤



来場した学生数は二日間延べ二千七百八十六人(キャリアアセ

電気学園の支援組織「名古屋電気学園愛名会」との共同で、両日の午前・午後約計四回開かれ、昨年より約

の企業展に参加できなかった愛名会加盟企業七十七社と愛知中小企業家同友会と豊田市雇用対策協会の会員

企業合わせて百二十六社が参加しました。

会場内は、希望する企業を探そうという大勢の学生らが各社のブースに詰めかけ、外の寒さをはね返すような熱気に包まれていました。参加学生数は、両日

延べ四百七十人でした。本学の学内企業展が人気を集めている背景には、大学卒業予定者ー特に理工系に対する企業のニーズが高く、団塊世代の大量定年時期とも重なった「売り手市場」のほか、キャリアセンターが中心になり愛名会会員企業、一般企業に積極的に参加を働きかけてきた努力の成果といえます。

就職活動を支援

キャリアアセクターは学生の就職活動を支援するため、一月十七、十八日の両日、

就職内定状況

二月一日現在でまとめた愛工大工学部と経営情報科学部の平成十九年度の就職内定状況は下記の通りです。

在学者数から進学希望者数及びその他を除いた昼間就職希望者数は、千二百二十七人(女子はうち九十人)で、内定者数は千八十四人(同八十五人)です。内定率は、両合計で九六・二%と、昨年同期に比べると二・三ポイントのアップ。内訳は、工学部が九六・二%と昨年同期比二・七ポイント増、経営情報科学部が九六・三%と、昨年同期比〇・一ポイント減でした。

Table with 5 main columns: Department, Job Seekers, Applicants, Employment Rate, and Last Year Same Period. It includes data for Faculty of Engineering, Faculty of Business Administration, and overall totals for day and night sessions.

2月1日現在



銀賞

中井 孝幸

都市環境学科講師の建築計画系

研究室に所属する大学院工学研究科博士前期課程建設システム工学専攻一年の伊藤慎浩君と建部謙治都市環境学科教授の建築・都市計画研究室に所属する同学科四年の谷山大介君が、第二十四回JIA東海支部設計競技(社団法人・日本建築家協会東海支部主催)で、いずれも銀賞に選ばれました。作品展示と表彰式が昨年十二月八日、名古屋市の朝日会館で行われました。

「ニワ」がテーマで学生の部(大学、専門学校)に百七十七点、一般の部(大学院も含む)に百九十七点の応募がありました。



優秀講演者表彰

青木 徹彦 都市環境学科教授

構造研究室に所属する工学



応用化学科・酒井 忠雄 教授、手嶋



ベストポスター賞

水野千早君

フランスで開発された固体の粉体とシリコンオイル等のオイルを混合してできるビンガムダンパーは、地震の揺れを制御する物質として注目を集めています。水野君は大学院で、青木教授や研究室の鈴木森晶准教授の指導を受け、耐震実験センターで安価な国産ビンガムダンパーの研究に取り組んできました。

各賞に輝く研究成果

愛工大の学生、院生

紀雄准教授の環境・分析化学研究室に所属する大学院工学研究科博士前期課程材料化学専攻二年の上田実君と、同一年の久野真紗美さんが、昨年十二月十六日八日にタイ・チェンマイで開催された日タイ共催の第七回流れ分析国際シンポジウムで、ベストポスター賞に輝きました。

シンポジウムは本学と五年前に、学術交流協定を結んだチェンマイ大のケイト・グルツパン教授が流れ分析に関する研究者や大学院生の育成を目的にタイ政府の助成を受けて開催。今回は国際交流を通して学術性と友好関係を深めることをテーマに、日タイ両国の院生も研究発表をしました。酒井教授、手嶋准教授の指導で、上田君が「ホルムアルデヒドの自動オンライン分析法」、久野さんと上田君が、「バナジウムの自動分析法」についてポスター発表を行い、ベストポスター賞に選ばれました。

設けられた本学の長瀧奨学基金の助成を受けて、参加しました。(写真は⑥が上田実君、⑤が久野真紗美さん)



全国大会発表奨励賞

依田正之・電気学科教授の電気エネルギー工学研究室に所属する工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻二年の佐藤純也君が、昨年九月六日七日の両日、広島県広島市の広島工業大学を会場に開かれた「平成十九年度電気設備学会全国大会」で、全国大会発表奨励賞に選ばれました。

佐藤君は、送電線への落雷地点を電圧変位からとらえる研究成果を「雷撃サージ電圧波形からみた故障点標定」と題して、発表しました。送電線への落雷前後で異なる電圧波形(雷サージ電圧波形)を解析、どの地点に落雷があつて、障害を起しているかを明らかにするものです。

(写真は佐藤純也君)



IEEE名古屋支部学生奨励賞



電気学会優秀論文発表賞

昨年九月二十七日二十八日、長野市の信州大で開かれた平成十九年度電気関係学会東海支部連合大会で、研究室に所属する工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻二年の楠慎也君が電気学会優秀論文発表賞を、電力システム工学研究室に所属する同二年の鷺津新佑君がIEEE名古屋支部学生奨励賞を、それぞれ受賞。楠君は、電圧を加えると変形し微小な動きをする圧電素子に着目した「圧電素子を用いたスチュワートプラットフォーム」を発表して電気学会から優秀論文発表賞を贈られました。鷺津君は、「新エネルギー・マイクログリッド」をテーマにした分科会で、走行中の車に搭載した風車で得た電気を蓄電し、活用する研究を「車載用風力発電システムを用いた電力回生システムの一検討」と題し、ポスター発表しました。その発表内容が優れているとして、〇四年度に設けられた電気学会名古屋支部の学生奨励賞を受賞しました。(写真は⑥が楠慎也君、⑤が鷺津新佑君)

全国大会出場の高校6クラブを学園表彰

卓球部、スキー部、自転車競技部など

学園は三月六日、全国大会出場を果たした愛工大名電高校のスポーツ六クラブを学園表彰しました。表彰は校長室で行われ、後藤淳理事長が各クラブの顧問らに出場選手の様子を聞きながら、激励しました。昨年は秋の国体少年男子で全国優勝者が出るなどしました。

表彰されたクラブの出場

大会名、顧問名、出場選手名は次の通りです(マル数字は学年)。

【自転車競技部】

◇平成十九年度全国高校選抜自転車競技大会(三月二十三日・北九州市メデアドーム、北九州市内特設ステージ)

【顧問】河島勝利教諭

【出場選手】野田晃大②、伊藤浩平②、大鹿裕一②、小川大地②、伊藤悠位②、

稲垣智仁①、奥村創哉①

【相撲部】

◇第五十九回全国高校相撲新人選手権大会(三月二十二日・高知県立春野運動公園相撲場)

【顧問】澤田勉教諭、板倉将昭教諭

【出場選手】柏原匡詞②、神山達哉②、近藤哲平②、沢井悠樹②、池田剛②、吉田圭佑①

【卓球部】

◇第三十五回全国高校選抜卓球大会(三月二十四日・二十六日・東京体育館)

【顧問】今枝一郎教諭、増田朗中事務部係長

【出場選手】内田侑佑②、片桐詳太②、神山峻②、篠原哲郎②、稲吉一樹②、中島裕騎②、北村祐馬①、森本耕平①

【フェンシング部】

◇第三十二回全国高校選抜フェンシング大会(三月



各クラブの顧問、コーチに出場選手の体調を聞きながら、激励する後藤淳理事長

二十一日・二十三日・岩手県一関市総合体育館)

【顧問】川嶋範夫教諭

【コーチ】小西貴之本山キヤンパス事務職員

【出場選手】山田湧真②、伊藤誠晃②、小山内秀斗②

岡田祐哉①、戸田有哉①

【スキー部】

◇第二十回全国高校選抜スキー大会(二月二十四日・二十六日・岐阜県高山市・鈴蘭高原クロスカントリコース)

【顧問】中村栄一教諭

【出場選手】中根礼音③

【ウエイトリフティング部】

◇第二十三回全国高校ウエイトリフティング競技選抜大会(三月二十七日・三十日・石川県金沢市総合体育館)

【顧問】高橋力教諭

【出場選手】七十七級・足立貴弘②、百五級・荒川真吾②、六十三級・野田春恵②

国体少年男子陸上で全国優勝

普通科三年、栗津良介君が、昨年九月に秋田県で開催された秋田わか杉国体の「少年男子A800g」に出場し1分51秒85の記録で優勝しました。

大学スキー、駅伝で優勝飾る

大回転で稲垣正織君が初優勝

出雲全日本駅伝の出場権を得る

一月六日七日の両日、長野県白馬村の岩岳スキー場で行われた「第五十三回中部日本学生スキー選手権大会男子1部」で、愛工大競技スキー部が総合優勝し、十一連覇を果たしました。一日目の六日、男子1部大回転で、稲垣正織君(情報科学科四年)が57秒61で初優勝を挙げ、二日目の七日には男子1部で、手塚正太君(同二

競技スキー部、11連覇達成



年)が1分26秒97で優勝。大会では、このほかスキー部大回転で久保田健司君(同二年)が二位、手塚君が三位に入り、二位の金沢大を引き離し、男子1部で総合優勝に輝きました。

陸上競技部が伝連覇

七度目の優勝を果たしました。大会には愛知、岐阜、三重、静岡の四県から二十一チームが参加し、愛知県武豊町から半田市を指す七区間六四・五キロのコースで健脚を競い合いました。後半追い上げて、六区で首位に立ち、そのままアンカーの金谷将史選手(情報科学科二年)がゴールのテープを切りました。今回の優勝で今年十月にある第二十回出雲全日本大学選抜駅伝の出場権を得ました。



1位でゴールのテープを切るアンカーの金谷将史選手=半田市で

名電高

全国大会常連校の演奏を披露
吹奏楽部が定期演奏会

第四十三回定期演奏会が一月十三日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場・白鳥センチュリーホールで昼の部、夜の部の二回に分けて行われ全国大会常連校の



華麗な演奏を披露する吹奏楽部
演奏を披露した。実力と伝統を誇る吹奏楽部

奏に先立ち後藤淳理事長が「全国大会出場のために一生懸命練習してきた成果を聞いていただく場をつくってみよう」と始めたのが、この演奏会です。今回もステージドリルを交えて、披

ブリッツ、峰チームと対戦

社会人野球クラブチーム「エイデンブリッツ(旧・愛工大硬式野球部OBクラブ)」が、昨年十二月二十二日、八草キャンパスの野球場でタレント峰竜太さん

露しますので、お楽しみください」とあいさつ。この後、顧問の伊藤宏樹、梶山宇一両教諭の指揮で、バレエ音楽「中国の不思議な役人」や「組曲・惑星より」などの名曲を演奏。

さらに、演奏の合間に、舞台狭しとばかりに勇壮なステージドリル「リバーダンス」を披露し、詰めかけた生徒、教職員、父母を魅了しました。

同部は、昨年も三年連続で「全日本吹奏楽コンクール」と「全日本マーチングコンテスト」の各大会に出場を果たし、銀賞に輝きました。コンクール活動以外にも地域の子供会や敬老会でのボランティア演奏、刑務所での慰問演奏と多彩な活動をしています。

のアマチュア野球クラブチーム「ドラH O T リューターズ」と練習試合を行いました。小雨の中、熱戦を繰り広げ、2-3の僅差でリューターズに負けました。峰さんも参加し、観客に愛想を振りまいていました。

名電1年合唱発表

音楽の授業を受けている高校普通科一年生の合唱発表会が二月十四日午後一時から、講堂兼体育館の番徳館で開かれ、八クラスが出場し、美声を披露しました。

授業でつくりあげたクラス合唱の成果を聴いてもらおうと、昨年から始めました。各クラスとも生徒の指揮、伴奏で、見事な歌声を館内いっぱいに響かせていました。教諭らによる合唱もあり、生徒を

声の大きさ、ハーモニーの美しさを基に審査も行われ、「明日へ」を歌ったA組がグランプリに輝きました。その他の各賞は次の通りです。金賞 B組▽銀賞 H組▽



「合唱発表会」で、授業の成果を披露する生徒たち

銅賞 G組▽指揮者賞 大森春香さん(A組)▽伴奏者賞 草野瑠奈さん(G組)

名電高生が最優秀賞を受賞



表彰を受ける加藤さん(左から二人目)

高校普通科一年・加藤由華さんが、愛知県県立学校図書館研究会主催の平成十九年度読書感想文コンクールで最優秀賞を受賞しました。二月二十七日、表彰式が同高で行われました。

同高では、昨年夏休みの課題として普通科一年生全員に読書感想文を書かせました。その中から優秀な数点を選び応募したところ、加藤さんの「『ガンに生かされて』を読んで」が、最優秀賞に選ばれました。式は校長室で行われ、加藤さんは桜井正一校長から「おめでとう」と、賞状を渡され、顔をほころばせていました。

編集後記

本学八草キャンパス内での二月中旬、来春卒業予定の大学生や院生らを対象にした「学内企業展」が開かれ、理工系卒業生人気もあつて、会場内は企業の人事担当者や学生で熱気ムンムンでした。理工系大学の入試環境は、学生の理工離れもあつて文系大学に比べ厳しいと言われていいます。しかし、就職環境を見ると全く逆です。『企業展』には、名古屋電気学園の支援組織「名古屋電気学園愛名会」加盟の四百を超す企業が参加。それでも、参加申し込みのあつた全社の要望に応じ切れませんでした。▼二月末に二日間の日程で開いた企業展の一日を、最初の企業展に入れたかった企業に割り振るほどの人気でした。加盟企業は年々増えていることから、就職担当のキャリアセンタ―は来年のやりくりは大変だろうなーと思ってしまうました。▼ある大学の先生が今後、中国、インド、ロシアという発展目覚ましい国と競走していくうえで、日本の生き残る道は「科学と技術」にあると指摘していました。▼本学の目指す「ものづくり」を柱とした実学教育はこの王道をいくも先が楽しみです。(八)